

平成30年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年10月13日

上場会社名 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド 上場取引所 東
 コード番号 7829 URL http://www.samantha.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)寺田 和正
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)菅原 隆司 (TEL) 03(6400)5524
 四半期報告書提出予定日 平成29年10月13日 配当支払開始予定日 平成29年11月6日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期第2四半期の連結業績(平成29年3月1日～平成29年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第2四半期	15,852	△10.3	△454	—	△519	—	△440	—
29年2月期第2四半期	17,678	△16.0	26	△98.3	328	△79.5	25	△96.8

(注) 包括利益 30年2月期第2四半期 △448百万円(—%) 29年2月期第2四半期 142百万円(△81.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第2四半期	△12.49	—
29年2月期第2四半期	0.72	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年2月期第2四半期	19,407	8,066	40.9
29年2月期	21,717	8,691	39.3

(参考) 自己資本 30年2月期第2四半期 7,944百万円 29年2月期 8,543百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期	—	5.00	—	5.00	10.00
30年2月期	—	5.00	—	—	—
30年2月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年2月期の連結業績予想(平成29年3月1日～平成30年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	35,541	0.3	146	180.8	70	△84.3	36	—
								1.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年2月期2Q	35,296,000株	29年2月期	35,296,000株
② 期末自己株式数	—株	29年2月期	—株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	35,296,000株	29年2月期2Q	35,296,000株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に、緩やかな景気回復の動きが見られた一方、英国のEU離脱問題や米国新政権への政策不安、及び中国を始めとする新興国経済の不確実性など、景気の先行については不透明な状況が続いております。

当社グループの主要な関連業界である百貨店を含む小売業界におきましては、インバウンド需要の減少や、消費マインドの低下が継続する厳しい状況となっております。

このような状況のもと、当社グループは、「良い人、良い場所、良い商品、良い宣伝」の実施を事業戦略にかかげ、効果的な店舗展開とプロモーション活動及び商品戦略などを展開してまいりました。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、主要ブランドの「Samantha Thavasa（サマンサタバサ）」及び「Samantha Vega（サマンサベガ）」のリブランディング（商品、宣伝、店舗の改革）を開始した結果、第2四半期後半より売上高は回復基調に転じているものの、前期に発生した生産物流における納期出荷遅延から生じる機会損失等の改善が未だ途上の段階であるため、158億52百万円（前年同期比10.3%減）となりました。

売上総利益率は、コスト低減に努めた結果、前年同期比0.3ポイント増の67.2%となり、売上総利益額は106億56百万円（前年同期比9.8%減）となりました。

販売費及び一般管理費は、人件費などの抑制を行ったものの、減収及びリブランディング開始に伴う先行投資費用の増加とその会計処理により、販売費及び一般管理費の対売上高比率は、前年同期比3.4ポイント増の70.1%となりました。この結果、営業損失は4億54百万円（前年同期は26百万円の利益）となりました。

営業外損益は、為替差損44百万円など合計69百万円を営業外費用に計上したため、経常損失は5億19百万円（前年同期は3億28百万円の利益）となりました。

特別損益は、固定資産除却損43百万円を特別損失に計上したため、親会社株主に帰属する四半期純損失は4億40百万円（前年同期は25百万円の利益）となりました。

なお、当社グループは「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を行っておりません。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの主な取組みは以下のとおりであります。

<店舗展開について>

出店戦略として、話題の商業施設への出店を行ってまいりました。事業別の出退店数、主な店舗は以下のとおりであります。

バッグ事業においては、9店舗の出店（17店舗の退店）となりました。国内では「Samantha Vega（サマンサベガ）」と「Samantha Thavasa Anniversary（サマンサタバサアニバーサリー）」を名古屋駅前の新たなランドマークであるタカシマヤ名古屋ゲートタワーモールに出店いたしました。また、リブランディングを開始した「Samantha Thavasa（サマンサタバサ）」を有楽町マルイとルミネ新宿に、「WEST COAST SAMANTHA VEGA（ウェストコーストサマンサベガ）」を渋谷109とルミネエスト新宿に出店（改装オープン含む）いたしました。

ジュエリー事業においては、1店舗の出店（1店舗の退店）となりました。「Samantha Tiara（サマンサティアラ）」を新宿マルイ本館に出店いたしました。

アパレル事業においては、9店舗の出店（3店舗の退店）となりました。「WILLSELECTION（ウィルセクション）」を池袋パルコ、静岡パルコ、浜松メイワン、宮崎ボンベルタに、「Swingle（スウィングル）」をマロニエゲート銀座2に、「REDYAZEL（レディアゼル）」をルミネ立川、名古屋パルコ、有楽町マルイに、「And Couture（アンドクチュール）」を阪急百貨店うめだ本店に出店いたしました。

海外においては、6店舗の出店（2店舗の退店）となりました。中東エリア初となる、アラブ首長国連邦（UAE）のドバイ国際空港近くに位置する巨大ショッピングモールのドバイフェスティバルシティモール内にあるロビンソンズデパート及び韓国のロッテワールドタワーに「Samantha Thavasa」を出店いたしました。

その結果、サマンサタバサグループ合計でブランド変更を含め、前年度末比で2店舗増加し、当第2四半期末の店舗数は402店舗となりました。

<プロモーション活動について>

プロモーション活動として、TVCMや、多数のファッション誌への掲載、各種イベント・キャンペーンなどを行っ

てまいりました。

今年度よりニューヨークを拠点に活動し、人気セレブなどのスタイリングや、数多くのブランドでファッションディレクターを務め、その斬新なスタイリングが話題の世界的クリエイターであるニコラ・フォルミケッティ氏とブランドプロデュース契約を締結いたしました。同氏をプロデューサーに迎え、2017年3月に、「サマンサタバサ×伊勢丹新宿×11の人気ファッション誌」がコラボレーションした特別企画「PINK WORLD BY SAMANTHA THAVASA」を伊勢丹新宿店にて開催いたしました。そして「Samantha Thavasa (サマンサタバサ)」のリブランディングを開始いたしました。2000年以降に成人した社会やファッションに影響を与えるデジタルネイティブである20代～35歳くらいまでのミレニアル世代を代表する5人を新たなプロモーションモデル「Samantha Millennial Stars (サマンサミレニアルスターズ)」として起用し、新CMを放映いたしました。さらに「Samantha Vega (サマンサベガ)」をATHLEISURE (アスレジャー) をテーマに西海岸のトレンドとスポーツテイストを融合した「WEST COAST SAMANTHA VEGA (ウェストコーストサマンサベガ)」としてリブランディングを開始し、バッグコレクションを始めブランド初のアパレル展開を行いました。プロモーションモデルにミレニアル世代の4人を「Samantha Millennial Sisters (サマンサミレニアルシスターズ)」として起用し、新CMを放映いたしました。前記2ブランドのプレス発表会及び来日イベントの様子は、TV、スポーツ紙、ネットニュースなど各メディアにおいて大きく取り上げられ話題を呼び、各ファッション誌においても、多数の特集が組まれました。また「Samantha Tiara (サマンサティアラ)」においても、「Samantha Millennial Stars」を起用し、NEW YORKで撮影を行った新TVCMを放映いたしました。

サマンサタバサ 表参道GATES ポップアップ デジタルストアにおいて、アニメ「ONE PIECE (ワンピース)」の世界観や、ディズニー実写映画「美女と野獣」をモチーフとして盛り込んだコラボショップを展開いたしました。

また、12歳の日本最年少のアーティストLaraさんとデザイナー契約を締結いたしました。就任記念イベントにおいて、コラボレーション商品を発表いたしました。インスタグラムのフォロワー数が約8万人の彼女のライフスタイルやクリエイティブはメディアにも取り上げられ、注目されています。

そして、当社グループが主催する女子ゴルフトーナメントである「サマンサタバサ ガールズコレクション・レディーストーナメント 2017」を、7月14日～16日の3日間、茨城県・イーグルポイントゴルフクラブで開催し、大会3日間で1万5千人強の方にご来場いただきました。

<オムニチャンネル戦略について>

C Channel 株式会社が運営する女性向け動画ファッションマガジン「C CHANNEL (シーチャンネル)」と協業を開始いたしました。公式クリッパー (動画制作配信者) にプロモーションモデル「ミランダ・カー」を起用し、ECサイト上において商品紹介動画を用いる事で日本および中国、韓国などアジア圏に新しい価値を提供し、日本発世界ブランドを目指してまいります。

また、Inagora (インアゴラ) 株式会社が運営する中国向け越境 ECプラットフォーム「豌豆公主 (ワンドウ)」に「Samantha Thavasa (サマンサタバサ)」を出店いたしました。先に出店している「天猫 (T-mall)」に続き、当社のオンラインショッピングを中国の消費者にも提供し、中国におけるブランド認知および購買利便性の向上や日本でのインバウンド集客の増加等につなげることを目的としております。

<商品戦略について>

商品戦略として、各ブランドにおいて多くの新作を販売し、話題性のある商品を販売いたしました。

バッグ事業の「Samantha Thavasa (サマンサタバサ)」において、ブランドの原点である「Sweet」、日本の「KAWAII」、ニューヨークの洗練された「Cool」を融合させ、出会った全ての人の夢を叶えるという想いを込めた「Dream-夢-」の「D」をモチーフとした「Violet D」シリーズや、ハンドバッグ・ショルダーバッグ・リュックとカジュアルからエレガントまで幅広く楽しめるサマンサタバサ「ネオルイーザ」を展開いたしました。「Samantha Vega (サマンサベガ)」において、映画『ひるなかの流星』コラボ新CMで紹介した、今年トレンドのチェーンがポイントのトートバッグ「アイリア」や丸みを帯びたシルエットがフェミニンなバッグ「シエナ」を展開いたしました。また、リブランディングを開始した「WEST COAST SAMANTHA VEGA (ウェストコーストサマンサベガ)」においてはATHLEISURE (アスレジャー) をテーマにブランド初となるアパレルライン及びラウンドカットのフラップがアクセントとなっている「ツイグス」をはじめ多数の商品を展開いたしました。

コラボレーションラインとして、アニメ「ONE PIECE (ワンピース)」の世界観や、ディズニー実写映画「美女と野獣」をモチーフとして盛り込んだ商品を展開いたしました。

アパレル事業においては、2017年4月に、阪急百貨店うめだ本店が行った大きいサイズの婦人服売場の全面リニューアルに伴い、日本屈指のインスタグラマー渡辺直美さんを特命バイヤーに起用したセレクトショップ「CHUBBY CURVY (チャビー カーヴィー)」を新設し、オリジナル商品企画、制作及び販売を開始いたしました。

<本社移転および教育環境の整備について>

2017年4月に、従業員の業務効率、モチベーションの向上、並びに会議、研修会場の整備を目的に、本社を13年振りにコスト削減も兼ね移転いたしました。1フロア約1300坪という都内最大級の無柱空間に執務室と全ブランドのショールームを配備いたしました。また、カフェおよびミーティングスペースを設け、従業員同士のコミュニケーションおよびクリエイションの活性を図る環境づくりを行っております。

新しい本社の様子が、働きたい会社として「フジテレビ」や「テレビ東京」の番組など多数のメディアに取り上げられました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

総資産は194億7百万円であり、前連結会計年度末と比較して23億10百万円減少しております。主な減少要因は、現金及び預金が22億23百万円減少したことなどによるものであります。

(負債)

総負債は113億41百万円であり、前連結会計年度末と比較して16億84百万円減少しております。主な減少要因は、支払手形及び買掛金が3億97百万円、長期借入金が12億5百万円減少したことなどによるものであります。

(純資産)

純資産は80億66百万円であり、前連結会計年度末と比較して6億25百万円減少しております。主な減少要因は、利益剰余金の減少によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ、22億23百万円減少し、21億68百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、7億38百万円(前年同四半期は22億19百万円の資金の増加)となりました。主な増加要因は、減価償却費4億3百万円、売上債権の減少額1億18百万円、その他に含まれる未収入金の減少額3億12百万円などによるものであり、主な減少要因は、税金等調整前四半期純損失5億63百万円、たな卸資産の増加額5億90百万円、仕入債務の減少額3億54百万円、法人税等の支払額3億26百万円などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、3億41百万円(前年同四半期は5億49百万円の資金の減少)となりました。主な減少要因は、有形固定資産の取得による支出5億41百万円、敷金及び保証金の差入による支出2億35百万円などによるものであり、主な増加要因は、敷金及び保証金の回収による収入4億89百万円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、11億30百万円(前年同四半期は12億38百万円の資金の減少)となりました。この主な内訳は、長期借入金の返済による支出9億63百万円、配当金の支払額1億75百万円などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年2月期の業績予想につきましては、平成29年10月6日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,391,782	2,168,033
受取手形及び売掛金	2,044,079	1,918,828
商品及び製品	7,959,156	8,533,609
原材料及び貯蔵品	293,495	297,300
その他	1,264,886	900,834
貸倒引当金	△6,127	△6,127
流動資産合計	15,947,273	13,812,478
固定資産		
有形固定資産	1,984,687	2,181,356
無形固定資産		
その他	457,931	435,778
無形固定資産合計	457,931	435,778
投資その他の資産		
差入保証金	2,952,409	2,632,383
その他	410,732	380,997
貸倒引当金	△35,356	△35,356
投資その他の資産合計	3,327,785	2,978,024
固定資産合計	5,770,404	5,595,159
資産合計	21,717,678	19,407,638
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,745,023	1,347,909
短期借入金	154,752	162,195
1年内返済予定の長期借入金	3,327,524	3,569,399
未払法人税等	303,076	107,691
賞与引当金	234,803	170,060
その他	1,491,873	1,283,955
流動負債合計	7,257,053	6,641,210
固定負債		
長期借入金	5,686,941	4,481,304
その他	82,135	219,034
固定負債合計	5,769,076	4,700,338
負債合計	13,026,129	11,341,548

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,132,600	2,132,600
資本剰余金	2,252,600	2,252,600
利益剰余金	4,248,743	3,631,564
株主資本合計	8,633,943	8,016,764
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,619	12,949
為替換算調整勘定	△112,642	△84,943
その他の包括利益累計額合計	△90,023	△71,993
非支配株主持分	147,628	121,317
純資産合計	8,691,548	8,066,089
負債純資産合計	21,717,678	19,407,638

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
売上高	17,678,019	15,852,699
売上原価	5,859,900	5,195,971
売上総利益	11,818,119	10,656,728
販売費及び一般管理費	11,791,614	11,110,985
営業利益又は営業損失(△)	26,504	△454,257
営業外収益		
受取利息	960	616
受取配当金	389	443
補助金収入	1,863	—
店舗移転補償金	450,000	—
償却債権取立益	108,977	—
その他	14,590	2,905
営業外収益合計	576,780	3,965
営業外費用		
支払利息	17,014	15,704
為替差損	251,336	44,976
その他	6,010	8,813
営業外費用合計	274,360	69,494
経常利益又は経常損失(△)	328,924	△519,786
特別損失		
固定資産除却損	88,684	43,400
その他	39	—
特別損失合計	88,724	43,400
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	240,200	△563,187
法人税、住民税及び事業税	182,350	130,475
法人税等調整額	43,812	△226,953
法人税等合計	226,163	△96,477
四半期純利益又は四半期純損失(△)	14,037	△466,709
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△11,255	△26,010
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	25,292	△440,698

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	14,037	△466,709
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△12,456	△9,669
為替換算調整勘定	141,217	27,399
その他の包括利益合計	128,761	17,729
四半期包括利益	142,798	△448,979
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	155,015	△422,668
非支配株主に係る四半期包括利益	△12,216	△26,310

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	240,200	△563,187
減価償却費	472,900	403,080
賞与引当金の増減額(△は減少)	△45,518	△64,743
受取利息及び受取配当金	△1,350	△1,059
為替差損益(△は益)	23,226	6,827
支払利息	17,014	15,704
固定資産除却損	88,684	43,400
売上債権の増減額(△は増加)	492,762	118,898
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,278,017	△590,692
仕入債務の増減額(△は減少)	△623,370	△354,712
その他	△226,069	564,056
小計	1,716,498	△422,428
利息及び配当金の受取額	1,045	659
利息の支払額	△17,511	△15,777
法人税等の還付額	565,476	25,946
法人税等の支払額	△45,718	△326,512
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,219,790	△738,112
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△342,098	△541,951
無形固定資産の取得による支出	△44,287	△43,859
投資有価証券の取得による支出	△2,999	△2,999
敷金及び保証金の差入による支出	△213,494	△235,247
敷金及び保証金の回収による収入	76,558	489,008
その他	△23,397	△6,196
投資活動によるキャッシュ・フロー	△549,718	△341,245
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△18,540	8,865
長期借入金の返済による支出	△1,043,962	△963,762
配当金の支払額	△175,702	△175,751
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,238,204	△1,130,648
現金及び現金同等物に係る換算差額	△125,227	△13,741
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	306,639	△2,223,748
現金及び現金同等物の期首残高	5,660,398	4,391,782
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,967,038	2,168,033

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

当社グループは、「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。